

# 教育は人づくりの原点

文学部新聞学科教授

鈴木 雄雅 (勤続25年)

一九七一年春、新入生(者)がなぜ新聞学科を文学部(School of Humanities)に置いたか、踏み入れてから四十年近くになります。縁あって八四年から学院に奉職して二十五年、四半世紀経ちました。最近では学生から「東京のお父さん」と呼ばれることに抵抗もなくなり、教え子の子供が孫と感じられるようになりました。



たと思います。

院生時代の学科創立五

最初の十年は突っ走り、「セブン・イレブン」と

十周年記念誌(八一年)や「回想 小野秀雄夫妻」

呼ばれることもありまし(八五年)の編集に始ま

た。所属する新聞学科のり、小規模学科でありな

開設に尽力された小野秀がら、主要校の一角を占

雄名誉教授(日本新聞学める学会活動にも参加す

会)現日本マス・コミュニる機会を与えられるよう

ニケーション学会創立になりました。学会創立

五十年史の編集(〇三年)、毎年開催される日韓国際シンポジウムや学会事務局のお手伝いなど、春原昭彦名誉教授、武市英雄名誉教授の下、本学代表を意識してつ、育てられたことに感謝しております。

大学院新聞学専攻の設立にご尽力された川中康弘教授、小糸忠吾教授らを引継ぎ、設置以来三百人以上にのぼる多士済々な修了者をほば知らないま、教育は人づくりの原点であることの難しさを改めて思うところです。

多くの出会いと刺激に満ちた職場。創立百周年をあと数年後に迎える本学が継承する世界に羽ばたく人づくり―私たちが挑む場がここにありま